

あたたかい子
かしこい子
たくましい子

学校だより

つよし

—第11号—

令和4年6月13日
平戸市立津吉小学校
文責 校長 田川定司



家庭訪問お世話になりました

先週の家庭訪問は大変お世話になりありがとうございました。家庭訪問は、学級担任が、家庭や地域の様子を知ることができる貴重な時間です。おかげ様で、子供たちが育っている環境をより詳しく理解することができました。今後の学校での指導に生かしていきたいと思います。

今日からスタートした「津吉っ子の心を見つめる教育週間」の見どころ

- 13日（月）から『水泳（水遊び）』の学習が始まります。詳細は学級通信等でお知らせします。
- 14日（火）の『ようこそ先輩』は、子供たちの興味関心のニーズに答えるとともに、新型コロナウイルス感染症対策のため、今年度は4つのグループに分けて開催します。講師の先生は、津吉保育所の村上智恵子さん（津吉）、消防士の西山忠幸さん（中津良）、美容師の高野有美さん（早福出身・中津良在住）、漁師の山川富士夫さん（津吉）の4名です。昨年度の講師は善果園の近藤重雄さん（堤）でしたが、講師の皆様には、職業のことだけでなく、出身小学校の思い出等も加えてお話ししていただきます。
- 15日（水）の『クリーン作戦』と『フラワーロード』は、登校後、朝一番の活動です。更生保護女性会の皆様など、地域の方と一緒に活動です。ふるさとを大切に作る心を育みます。
- 17日（金）の『情報モラル研修会』は、長崎県教育委員会がLINE株式会社と共同で開発した情報モラル教育教材「SNSノート・ながさき」を活用し、カードを用いながら少人数で学びを深めます。研修会はPTA 研修部主催ですが、5・6年生児童も参加します。

平戸市少年の主張大会がありました

6月12日（日）に、平戸文化センターで、「平戸市少年の主張大会」が開催されました。市内の小中学校から各1名の代表が発表しました。津吉小学校からは、6年日高 暖くんが、「食べ物は食べる物？捨てる物？」という題で発表しました。自分の実体験を取り入れながら、「食品ロス」について、新しい提案を盛り込んだアイデアや願いが、熱く語られました。

この少年の主張大会に向けて、6年生児童全員が、ふるさと平戸の振興について真剣に考え、考えを作文にまとめました。子供たちが書いたどの作文にも、子供たちのふるさとに対する熱い思いと6年生の今考える平戸の未来像、そして自分の将来の夢などが具体的に描かれていました。その思いや考えを保護者や地域の方にも広く知らせたいと考え、下記の方法で公開したいと思います。校区内の複数箇所に展示しますので、ぜひご覧ください。

【展示場所】 校区内6か所

○南部公民館（多目的センター）1階ロビー → 全員分

○各地区（津吉郵便局・前津吉郵便局・中津良郵便局・堤郵便局・旧早福分校）→当該地区児童

【展示期間】 6月13日（月）～6月24日（金）

【津吉小代表の日高 暖くんの発表原稿を裏面に掲載していますので、ご覧ください。】

「食べ物食べる物？捨てる物？」

平戸市立津吉小学校 6年 日高 暖

「食品ロス」という言葉を聞いて、どんなことを思い浮かべますか？食品ロスというのは、食品が足りないということではなく、その逆で食べられなかった食品が余りすぎて、その食品を廃棄するということです。では、日本では一日でどのくらいの量の食べ物が廃棄されているのでしょうか。現在日本の一日の食品ロスの量は、10 t の大型トラックの約 1560 台分の食品が廃棄されているそうです。あまりの多さに全く想像がつかず驚きました。

最近こんなことがありました。平戸のお店に行った際、牛乳を取りに行くとおじいさんが、並べてある棚の後ろの列から牛乳を取っていたので、僕も同じように後ろの列から取りました。後ろの列から取ったほうが、賞味期限も長くて新鮮なイメージがあったからです。しかし、その食品が並べられている上には、こう書かれてありました。「食品ロスが多くなっています。できるだけ前の列からお取りください。」と。そこではっと気づきました。食品ロスは遠い地で起こっているのではなく、自分の身の回りで起きているんだと。僕は取った牛乳を棚の奥に戻し、手前の牛乳を取ってレジを済ませました。

では、この食品ロスはどうすればなくなっていくのでしょうか。

まずは、日本の現在の食品ロスの実態を、たくさんの方が知るべきだと思います。そのためには、TV や新聞、インターネットや YOUTUBE など、影響力のある情報機器でたくさんの人に紹介してもらい、国全体で取り組むことが必要です。また毎月、市から発行されるお便りでも、大きな話題として取り上げ、市民全員がこの危機的状況を把握することで、人々の意識は少しずつ変わってくるのではないのでしょうか。

他にも家庭内で食品ロスを減らすこともできます。僕のお母さんは料理がとても上手で、毎日おいしいご飯を作ってくれます。僕の家は6人家族で、一回の買い物で大量の食材を買いますが、お母さんはクッキングアプリなどで、残っている食材でできる料理を調べて、アレンジレシピを作ったりとか、おやつを作ったりなど色々な方法を自分自身で見つけて、食材を残さず使いきっています。すごいなといつも感心します。

そして、僕自身ががんばっていることもあります。それは、給食や家で出たご飯を残さずに食べきるということです。家では、料理を作ってくれたお母さん、家族にお腹いっぱい食べさせるためにお仕事を頑張っているお父さん、そして食材を作ってくださる生産者の方々に感謝をして、お米一粒も残さないようにきれいに食べています。学校では、担任の先生が「残さいはゼロ！」と口癖のように言っています。もちろん、苦手な食べ物を減らす友達もいますが、残った料理は、学級のみんなで協力して食べ、僕の学級の食缶は毎日空っぽです。僕もできるだけたくさん食べて、残さいゼロに貢献しています。

今回、最初に述べた牛乳事件をきっかけに、食品ロスについて自分なりに色々考えることができました。僕一人ですることは限られていますが、日本全国の皆さん一人ひとりがほんの少しだけ意識を変えるだけでも、この状況は改善していくはずですよ。毎日10 t トラック1560台分の大切な食材が、私たちの日本では廃棄されています。食べ物は廃棄されるために作られたのではありません。みんなに美味しく食べてもらうために作られたのです。今日からみんなの意識を変えていきましょう。「チリも積もれば山となる」、廃棄される食材を積み上げるのではなく、一人ひとりの小さな取り組みを積み重ねましょう。それが、山のような大きな改革につながることを信じて。

入賞おめでとう！！

様々なスポーツ大会等で、津吉っ子の活躍がありました。

平戸市小学生バレーボール連盟春季大会	【第3位】津吉ジュニアバレーボールクラブ
佐志岳杯軟式少年野球大会	【準優勝】南部少年ベースボールクラブ